

1 概要

- (外交)2日、ボリッチ大統領、訪米しバイデン米大統領と首脳会談実施。
- (内政)7日、ボリッチ大統領、憲法審議会の閉会式典に出席し、新憲法案を受理。
- (外交)7日、ボリッチ大統領、訪智したペニャ・パラグアイ大統領と首脳会談実施。
- (外交)14日、ボリッチ大統領、APEC首脳会議(米サンフランシスコ)に参加。
- (外交)23日、ボリッチ大統領、グテーレス国連事務総長らとともに南極を訪問。

2 内政

(1)制憲プロセス

ア 11月7日、ボリッチ大統領は、旧議会(サンティアゴ市内)で開催された憲法審議会の閉会式典に出席した。同式典において、新憲法案の提出を受けた後、ボリッチ大統領は、演説を行い、また、トア内務・治安大臣及びエリサルデ大統領府長官とともに、12月17日に国民投票を実施するための大統領令に署名した。

イ 演説において、ボリッチ大統領は、「新憲法案が承認された場合、政府は、それが正しく施行されるよう職務を遂行し、他の国家機関とともに、必要とされる法改正及び規則の適用のプロセスを担っていく。一方、新憲法案が否決された場合、間髪入れずかつ精力的に国民のために働き、統治し続けることに専念し、国民が求める社会的な要求事項に危機感をもって応えていく」と述べた。

(2)金融市場における買収疑惑

11月14日及び15日付当地各紙は、金融業経営者が著名な弁護士と共謀して、チリ金融市場委員会(CMF)及びチリ国税庁(SII)から自社に有利な情報を入手するため、同組織の職員の買収を画策したという疑惑について報じた。報道によれば、11月14日、当地のネットメディア「Ciper Chile」が、当地で著名な弁護士である、ルイス・エルモシージャ氏と、依頼人である企業経営者のダニエル・サウエル氏との間で交わされた、CMF及びSIIの職員の買収を画策する内容の会話を公表した。現在、両機関において事実関係の内部調査中であり、また検察当局も職権で捜査を行っている。

(3)ボリッチ大統領とカラモス前同大統領パートナーとの関係終了等

ア 11月16日付当地各紙は、チリ下院において、ボリッチ大統領がサンティアゴ市内のコンドミニウムに住む”若い女性”を訪問した際における安全措置に関する懸念についての議員間で質疑がなされたと報じた。

イ 同日、ポリッチ大統領は、カラマノス前同大統領パートナーとの約5年間に亘る関係が終了したことを自身のSNSを通じて公表した。同大統領は、APEC閣僚会合への参加のために訪米中であったが、記者会見において、「カラマノス前パートナーは素晴らしい女性であり賞賛している。彼女と多くのプロジェクトを構築した。全ての恋愛関係の終了と同様に辛いものである。しかし、健全なものである」と述べた上で、警備上の懸念については、「心配することは何もない」と述べた。

ウ また、ポリッチ大統領は、「自分が集中していることは、どのようにチリにおける犯罪に立ち向かい闘うのか、また、どのように公の教育、健康、経済を改善するのかであり、不正や一部の人の嘆かわしい印象にコメントすることではない。私生活が尊重されることを期待する」、「本件に関して自分がコメントを行うことは最後となるであろう。本件を自分達の間だけに留めておきたかった。しかし、他人の生活に対する意見を述べたい一部の者の試みにより、我々は公にすることにした」と述べた。

(4)ポリッチ政権に関する世論調査(「Cadem」(11月第4週))

ア ポリッチ大統領の施政を評価するか(括弧内は10月第4週の結果、以下同様)。

評価する :30%(33%)
評価しない :65%(60%)
どちらでもない :3%(4%)
わからない、無回答:2%(3%)

イ 制憲プロセス

(ア)12月に実施予定の国民投票においてどちらに票を投じるか。

賛成 :38%(34%)
反対 :46%(51%)
わからない :16%(15%)

(イ)12月に実施予定の国民投票の結果をどのように予測しているか。

賛成 :38%
反対 :55%
わからない : 7%

ウ 経済・社会の現状

(ア)チリは良い方向に向かっているか。

向かっている :26%(20%)
向かっていない :69%(65%)

(イ)チリ経済は現在発展しているか。

発展している :17%(15%)
停滞もしくは後退している:82%(84%)

(5)南部治安情勢

ア 昨年5月16日に南部地域に対して非常事態宣言が再発令されてから1年半が経過した。11月24日、同期間に発生した放火襲撃事件の統計資料が公表され、今年に入ってからこれまでの事件件数は、関係機関の連携等により、2021年の同時期比で40%減、また2022年の同時期比でも25%減となった。

イ 11月29日、チリ下院は、非常事態宣言の延長を承認し、同宣言の12月22日までの期限延長が決定された。対象範囲は、前回同様、アラウカニア州全体、そしてビオビオ州のアラウコ県及びビオビオ県である。

3 外交

(1)対米関係

ア 11月2日から3日にかけて、ボリッチ大統領は、APEP(経済的繁栄のための米州パートナーシップ)首脳会合への出席の機会に、米国ワシントンDCを訪問した。今次訪米には、バン・クラベレン外相、グラウ経済・振興・観光大臣及びフローレス投資促進庁(INVEST CHILE)長官が同行した。

イ 11月2日、ボリッチ大統領は、バン・クラベレン外相とともに、ホワイト・ハウスにおいて、バイデン米大統領とチリ米首脳会談を実施した。外交関係樹立200周年の枠組みにおいて実施された同会談で、両大統領は、11月3日に実施予定のAPEP首脳会合、貿易及び環境分野、地域及び世界的なアジェンダについて対話した。

ウ また、ボリッチ大統領は、「責任ある投資フォーラム」へ出席した。中南米諸国のリーダーが集まる中、米州開発銀行(IDB)は、米国政府と連携し、サプライチェーンの強靱化、官民でのイノベーション強化及び気候変動に対する闘いを通じた、中南米経済の強化、さらに競争的且つ包括的な西半球の構築に向けたフォーラムを開催した。

(2)イスラエル・パレスチナ情勢

ア 11月6日、バン・クラベレン外相は、チリ外務省において、イスラエルによる受入不可の国際人道法の侵害に対し、ボリッチ大統領が召喚する決定を取った、カルバハル駐イスラエル・チリ大使と会合を行った。同外相は、同会合において、ガザ地区で生じている国際人道法の侵害について、また、ヨルダン川西岸の状況、特にパレスチナ領土における不法な定住者の代表とパレスチナ国民の間の衝突について対話したと述べた。

イ 11月8日、ハマスによって誘拐されていたチリ人女性ローレン・ガルコビッチ氏の死亡が確認された。ロディカ・ラディアン・ゴルドナ駐イスラエル・スペイン大使は、自身のSNSを通じて本件を公表し、併せてガルコビッチ氏の配偶者であるスペイン人男性イバン・ジャラメンディ氏の死亡も公表した。

(3) APEC(アジア太平洋経済協力)会合

ア 11月16日、ボリッチ大統領は、バン・クラベレン外相とともに、米国サンフランシスコで開催された、APEC首脳会議に出席した。同会議の主たるテーマは、持続可能性、気候及び公正なエネルギー移行であり、APEC2023の優先事項である、相互連結、イノベーション及び包摂性に基づいて議論がなされた。

イ これに先立ち、11月14日、バン・クラベレン外相は、サンウエサ国際経済担当次官とともに、APEC閣僚会議に参加した。同外相は、「持続可能な未来に向けた革新的環境の実現」及び「すべての人にとって公平で包摂的な未来への支持」と題されたセッションにおいて、持続可能性はチリの外交政策の軸の一つであると強調した。

(4) 中南米諸国

ア 11月7日、ボリッチ大統領は、チリを公式訪問したペニャ・パラグアイ大統領と首脳会談を実施した。この機会に両大統領は、人権分野におけるコミットメント、勧告の遵守及び施行に関する取組の体系化、フォローアップ及び調整に向けた国内機関間常設メカニズムに関するMOUに署名した。

イ 11月9日、パンアメリカン競技大会(当館注:10月20日から11月5日までサンティアゴ市で開催された)に参加していた7名のキューバ人スポーツ選手が、チリ内務省移民局に対して難民申請を行った。選手らの弁護士によれば、選手達のビザは11月12日に失効する。他方、トア内務・治安大臣は、「チリ政府は、当該申請を迅速にかつ最善を尽くして検討するだろう」と述べている。

ウ 11月19日、チリ政府は、同日付外務省コミュニケを通じて、ミレイ・アルゼンチン次期大統領に対し、最大限の成功を祈念するとともに、同日実施された選挙に関し、アルゼンチン国民及び政府に祝意を表明した。また、「チリは、兄弟であるアルゼンチンとの間で長年に亘り構築されており、将来のビジョンを有し、両国国民の利益となる、二国間関係を強化し続ける意思を表明する」と述べている。

エ 11月22日、デ・ラ・フエンテ外務次官は、フェルナンデス国防大臣とともに、ブラジルにおいて開催された、第1回南米諸国外務防衛閣僚会合(12+12)に参加した。今次会合には、本年5月30日、ブラジルにおいて開催された南米諸国首脳会談において到達した、南米統合の再開に向けた、ブラジル合意の枠組みにおいて、南米12か国の代表が集結した。

オ 11月24日、チリから国外追放される予定のベネズエラ人約60名を乗せたベネズエラ民間航空機が、ベネズエラに向けて離陸する予定であったが、ベネズエラへの着陸許可を得ることができなかった。トア内務・治安大臣は、「我々は、チリ政府として、この問題を解決するために、外交的に最も高いレベルでの働きかけを行っている。これは、我々が放棄できない、粘り強く取り組まなければならない案件である」と述べた。

(5)南極

11月23日、ボリッチ大統領は、グテーレス国連事務総長及びバン・クラベレン外相とともに、南極を訪問した。同訪問においては、南極地域にチリが有する10個の基地の内3個を訪問するとともに、COP28開催前に行われた、チリ南極研究所(INACH)による南極における気候変動の影響に関する展覧会に参加した。なお、チリ側代表団には、ロハス環境大臣、エチェベリ科学・テクノロジー・知識・イノベーション大臣、ナルバエス・チリ国連大使も同行していた。

(了)